

組合員専用ページ

**被爆・戦後80年****5・3憲法アピール**

8月6日、広島 9日、長崎に原子爆弾が投下されてから今年で被爆80年、8月15日の終戦から戦後80年になります。

8月6日 ヒロシマで被爆した詩人の原民喜さんは、「・・・人類は戦争と戦争の谷間にみじめな生を営むのであろうか。原子爆弾の殺人光線もそれが、直接彼の皮膚をやかなければ、その意味が感覚できないのであろうか。人間が人間を殺りくすることに對する抗議は果たして無力に終わるのであろうか」と語り、8月9日、被爆直後の長

崎を訪れた米軍カメラマン、ジョー・オダネルさんは「焼き場にやってきたやせ細り、ぼろぼろの服を着て・・・その背中に2歳にもならない幼い男の子を背中にくくり付けた少年の、涙も出ないほどの悲しみに打ちひしがれた顔を見守り・・・肩を抱くことも声をかけることもできないまま立ち尽くしていた」（「焼き場に」）と記しています。1945年8月15日終戦から80年経ちましたが、被爆者である原さんや少年、幾千万の人びとの命をうばった戦争が、どのような目的で、どのようにして始まり、どのようにしていったら止めることができたのか、その原因と責任についてあきらかにし、二度と戦争を繰り返さないこと、核

憲法9条は先の戦争で、人間の尊厳と自由を奪われた幾千万の人びとの命であがなわれた、平和と戦争のない世界への道しるべです。ウクライナやガザで起きていることに目をそらしてはいけません。耳をふさいではなりません。今、この時にも奪われつつある暮らしや人間の尊厳、一つひとつのいのちを想い、平和について考え続けましょう。考え続け行動することは未来への希望につながります。

核兵器のない世界と未来は、今を生きる私たち、未来の子どものための願いです。

戦争させない、9条壊すな！**5・3兵庫憲法集会****～憲法はあなたの命と未来のサポーター～**

5月3日、憲法記念日に、みなとのもり公園で「戦争させない、9条壊すな！5・3総がかり行動兵庫県実行委員会」による、「戦争させない、9条壊すな！5・3兵庫憲法集会」が開催され、兵庫教組から約300人が参加した。（主催者発表3,500人）

集会の様子

集会は、川口真由美さん・島田篤さんによるミニコンサートで始まった。主催者の羽柴修介護士、来賓の井坂信彦衆議院議員らのあいさつの後、ピースボート共同代表・畠山澄子さんからの訴えがあった。シュプレヒコールの後、第27代高校生平和大使・兵庫活動メンバーの松尾仁菜さんと鈴木凛大さんが「5・3憲法アピール」を今こそ、非戦を誓った憲法9条による世界平和を（以下に記載）を読みあげ、採択された。

閉会後には、三宮センター街や、フラワーロード、大丸前のコースにわかれてパレードがおこなわれ、憲法9条による世界平和への思いを訴えた。

憲法9条**日教組 梶原中央執行委員長が長時間労働の是正を訴える！！****日教組**

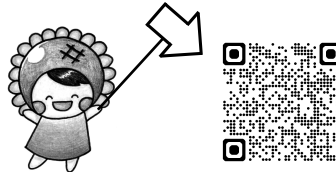
梶原中央執行委員長は、「現場は『業務削減、定数改善、給特法の廃止もしくは抜本的見直し』をもとめている。今回の法改正は応急措置であり、教員の処遇改善としても長時間労働は正しくても不十分。長時間労働を是正するしくみを強化すべきである。働き方改革をすすめるための校務DX化や『業務の三分類』を移行していくに



4月25日、衆議院文部科学委員会では給特法改正案にかかわる参考人質疑がおこなわれ、日教組梶原中央執行委員長が参考人として意見を表明し、長時間労働の是正を訴えた。

も、自治体の財政力が影響しており、国が責任をもつて財政支援をするべきである。また、給特法を廃止し、労基法に移行したとしても直ちに長時間労働が是正されるものではないが、労基法は、労使双方で時間を意識した働き方を実現させて、業務を減らすことや人を増やすことにつながると考える。

一方、労基法の導入による

質疑の様子はこちら

り、緊急な子どもの対応が時間外ではできないといった誤解が生じているが、緊急時や必要な対応をするために36協定を結び、協定時間を超えそうな場合については労使で協議したうえでの対応は可能である。新規採用者の精神疾患者が出現の現状の打開策については、学級担任をなくしてもよい等のサポート体制や若年層を守るしくみづくりは誰もが働きやすい職場づくりになる。忙しくて同じ職場でも相談できない現状を改善し、同僚性を確保することが必要である」と述べた。

兵庫教育文化研究所**第94回運営委員会****第109回研究所員会議**

5月9日、兵庫教育文化研究所第94回運営委員会・第109回研究所員会議がラッセホールにてハイブリット形式でおこなわれた。

福山書記次長のあいさつの後、秋岡事務局長、竹内事務局次長から、経過報告と25年度のとりくみ、第75次教育研究活動の推進、今後の教研活動等について提起された。



研究所員会議では、20の部会それぞれにわかれ、それぞれの研究や年間計画等が話し合われた。

**福山書記次長****あいさつ要旨**

組合活動をおこなう上で、勤務労働条件をもとめていく運動と、教育研究活動、この2つを両輪でおこなっていくことが不可欠である。兵教組のシンクタンクとして、これほど大きな研究所、また多岐にわたる分野に精通した研究内容を網羅している研究所があることは、全国でもまれである。兵庫の教育を支えている

るといっても過言ではないこの教育研究活動。それらを推進する立場にいる、協力研究所員みなさん、研究所員みなさんに心より敬意を表する。国会（衆議院）では「給特法」のヤマ場を迎えている。その中で、カリキュラム・オーバードのことなどが文部科学委員会議論されている。そのような情勢である今だからこそ、教育研究活動の重要性がクローズアップされてくる。子どものゆたかな学びと育ちにむけ、兵庫の教育研究活動がみなさんのお力を借りながら、一層発展することを願う。

**研究所員会議の様子****学校現場の声を国会に届けよう！**

現在、国会で給特法をはじめとした学校の働き方改革について審議されています。みなさんから集まった投稿を、国会・各政党等届け、長時間労働是正・勤務環境の改善を訴えます。まだまだみなさんの声をお待ちしています。

左の二次元コードからアクセスして投稿してください。

※日教組「意見投稿フォーム ver. 2」では、組合員だけでなく、同じ学校で働き、賛同いただけるすべての方々（管理職も含む）の長時間労働是正、持続可能な学校の実現にむけた思いも集約しています。

こちらからアクセス！！